

<第46回調査>

2013年03月25日

【本調査の目的】

2009年6月の第1回調査を皮切りに、(株)外為どっとコムは、口座開設者のお客様を対象として、「投資動向等に関するアンケート調査」を毎月定期的を実施しておりましたが、2010年8月の第15回調査より、その名称を「外為短期投資動向調査(略称:外為短観)」に改めました。本レポートは、同調査の結果に基づき、(株)外為どっとコム総合研究所がその一部を取りまとめるという形で対外的に公表するものです。

近年の外国為替市場において、本邦の外国為替保証金取引への関心が強まっているのは周知の通りですが、その実像を把握するのに必要な統計データ等の整備は、既存のマクロ経済データや金融関連データなどに比べて、遅れているのが実情です。今後こうした調査を継続的に実施することで、時系列で比較した個人投資家層の相場感の変化や投資家属性別の投資動向の特徴などを精査し、当社の調査研究活動の深化につなげるとともに、その一部を社会に還元することが、本調査の目的です。

また、本調査におきましては、国内外の市場参加者が注目する各種イベント前後の時期に、不定期のアンケート調査の結果も公表いたします。定点観測の調査結果と合わせて、ご参考にして頂ければ幸いです。

【調査実施期間】

2013年03月12日(火)13:00～2013年03月19日(火)13:00
※毎月中旬から下旬にかけての1週間を調査期間としています。

【調査対象】

(株)外為どっとコムの『外貨ネクスト』に口座を開設のお客様層

【調査方法】

(株)外為どっとコムの取引画面内にアンケートを公開。
今回の有効回答数は398件。
※必要項目を全て入力して回答して頂いたお客様を「有効回答数」としました。

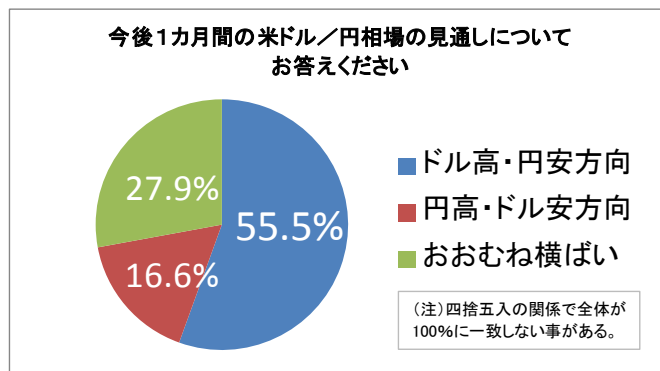
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2013 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【第46回調査結果略報：米ドル/円の強気見通しに陰り？】

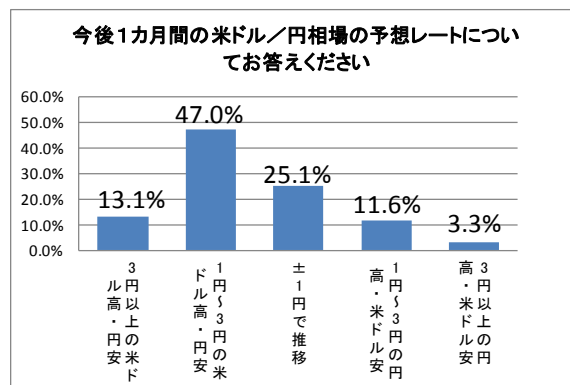
問1：今後1カ月間の米ドル/円相場の見通しについてお答えください

「今後1カ月間の米ドル/円相場の見通し」については、「ドル高・円安方向」と答えた割合が55.5%であったのに対し、「円高・ドル安方向」と答えた割合は16.6%となった。この結果「米ドル/円予想DI」は+38.9%ポイントとなり、前月(+45.3ポイント)からプラス幅を縮小した。調査期間中のドル/円相場は2009年年8月以来の高値水準となる96円台後半から一旦94.30円台まで軟化したものの、その後再び95円台後半まで切り返すなど、方向感は乏しかった。「予想DI」は過去の平均(11.4%ポイント)を上回る高水準を維持しており、FX投資家のドル強気・円弱気の姿勢は維持されてはいるが、「おおむね横ばい」と答えた割合(前月：25.3%、前々月：15.7%)と「円高・ドル安方向」と答えた割合(前月：14.7%前々月：13.6%)が上昇していることから、ドル高・円安の進行についてやや懐疑的になってきているFX投資家が増えている様子が窺える。 ※過去のドル円予想DIの推移はP8-9に掲載。



問2：今後1カ月間の米ドル/円相場の予想レートについてお答えください

「今後1カ月間のドル/円相場の予想レート」については、「1円～3円のドル高・円安」が47.0%と最も多く、次いで「±1円で推移」が25.1%、「3円以上のドル高・円安」が13.1%、「1円～3円の円高・ドル安」が11.6%、「3円以上の円高・ドル安」が3.3%の順となった。前月に続き、ヒストグラムの形状は大きくドル高・円安側に傾いており、問1の結果と整合的である。約6割もの回答者が97円台から98円台(調査期間中の終値平均95.63円から推計)への上昇を予想した事になり、3月中にも3月12日に付けた2009年8月以来の高値(96.70円)を更新すると見ている事になる。調査期間中のドル/円相場が一時軟化しながらも下値の堅さを見せ、切り返した背景には、こうしたFX投資家のドル強気・円弱気見通しがあると考えられる事もできよう。

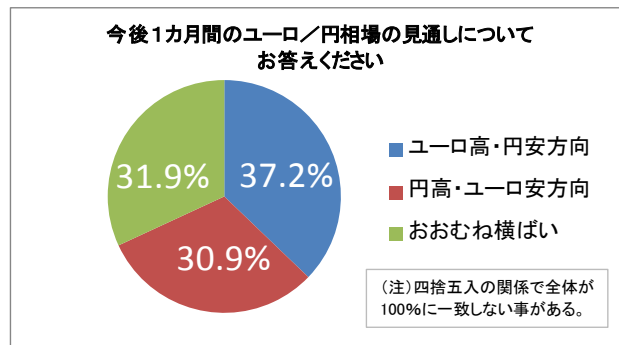


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2013 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

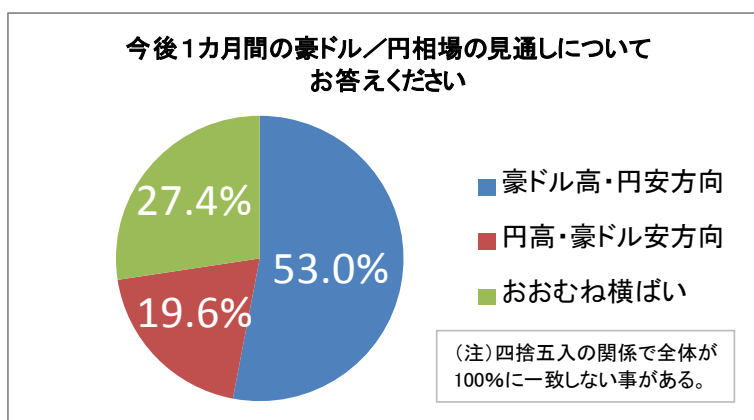
問3: 今後1カ月間のユーロ/円相場の見通しについてお答えください

「今後1カ月間のユーロ/円相場の見通し」については、「ユーロ高・円安方向」と答えた割合が37.2%であったのに対し、「円高・ユーロ安方向」と答えた割合が30.9%となった。この結果「ユーロ円予想DI」は+6.3%ポイントとなり前回(+26.2%ポイント)からプラス幅が大幅に縮小した。調査期間中のユーロ/円相場は126.03円から121.64円まで軟化。その後は下げ幅を圧縮したものの、124円台前半では上値が抑えられた。ユーロ圏財務相会議がキプロスへの支援と引き換えに同国銀行預金に課税することを決定。これにまつわる混乱がユーロの重石となったようだ。キプロス問題についての目先の不透明感は強く、一部のFX投資家はユーロ高・円安予想を円高・ユーロ安予想に修正したものと思われる。 ※過去のユーロ円予想DIの推移はP8-9に掲載。



問4: 今後1カ月間の豪ドル/円相場の見通しについてお答えください

「今後1カ月間の豪ドル/円相場見通し」については、「豪ドル高・円安方向」と答えた割合が53.0%であったのに対し、「円高・豪ドル安方向」と答えた割合は19.6%となった。この結果「豪ドル/円予想DI」は+33.4%ポイントとなり、前月(+29.2%ポイント)から豪ドル強気・円弱気姿勢を強めた。調査期間中の豪ドル/円相場は99.97円と100円の大台に接近。その後キプロス問題を受けたリスク回避の動きで97円台まで値を下げたが再び99円台へ切り返すなど高値圏での推移となった。豪ドル/円の強気見通しを持っているFX投資家は回答割合の半数を超えるなど、依然として100円を射程圏内に納めている状態で前月(48.6%)からはっきりと増加していることがわかる。 ※過去の豪ドル円予想DIの推移はP8-9に掲載。

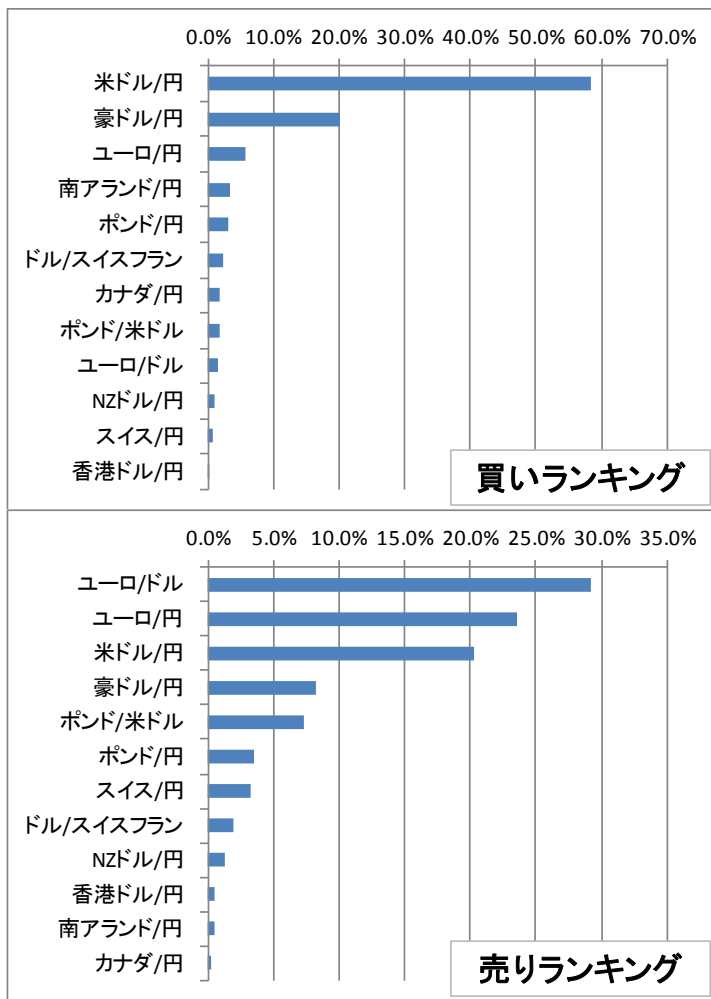


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様が生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2013 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問5: 今後、注目の通貨ペアについてお答えください

「今後注目している通貨ペア」について尋ねたところ、「買い」で注目されている通貨ペアは、1位米ドル/円(58.3%)、2位豪ドル/円(20.1%)、3位ユーロ/円(5.8%)、4位南アランド/円(3.5%)となった。一方、「売り」で注目されている通貨ペアは、1位ユーロ/ドル(29.1%)、2位ユーロ/円(23.6%)、3位米ドル/円(20.4%)、4位豪ドル/円(8.3%)となった。「買い」で最も注目を集めた米ドル/円は前月に続き2位以下を圧倒する支持を集めるとともに前回調査(57.8%)を上回り、過去最高の回答割合を更新した。ただ、2位の豪ドル/円も前月(14.3%)から回答割合を伸ばしている。100円の大台に接近したことで関心が高まっていることを示した。一方、前月は「売り」で注目されている通貨ペアの2位だった米ドル/円は今回は順位を3位に落とした。代わりに「売り」でひととき注目を集めたのはユーロ/ドルだ。回答割合は前月の20.7%から29.1%へと大幅に拡大。また、2位を維持したユーロ/円も回答割合を前月の23.1%から23.6%と、僅かに伸ばしている。キプロス問題の浮上で急激にユーロの下ブレリスクが意識されたことが結果に反映されたものと考えられる。

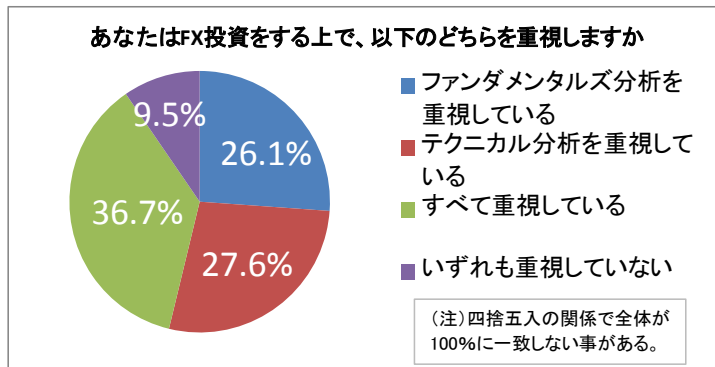


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2013 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

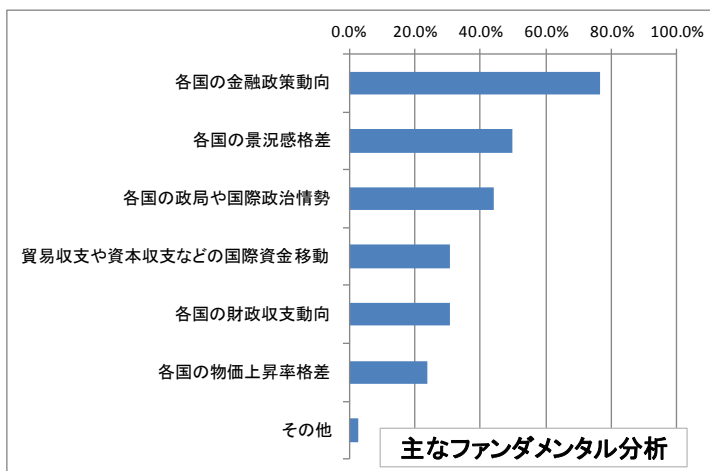
問6: あなたはFX投資をする上で、以下のどちらを重視しますか?

「FX投資の際に重視する分析手法」については、「ファンダメンタルズ分析を重視」と答えた割合が26.1%であったのに対し「テクニカル分析を重視」と答えた割合が27.6%という結果となった。また「すべて重視している」と答えた割合が36.7%と引き続き最も多かった。前月はファンダメンタルズ重視派の割合がテクニカル重視派を7カ月ぶりに上回ったが、今月は再びテクニカル重視派が大勢となった。2月に比べ、米ドル/円相場の動きに落ち着きが見られるようになったことで、再びテクニカルを重視した細かい取引を行うFX投資家が増え、これが回答結果に表れた可能性がある。



問7: ファンダメンタルズ分析では何を主に活用していますか? (いくつでも)

「ファンダメンタルズ分析で主として活用する相場変動要因」について複数回答可として尋ねたところ、「各国の金融政策動向(76.7%)」と答えた割合が最も多く、「各国の景況感格差(50.0%)」、「各国の政局や国際政治情勢(44.1%)」、「貿易や資本収支等国際資金移動(30.9%)」、「各国の財政収支動向(30.6%)」、「各国の物価上昇率格差(24.0%)」の順に続いた。「各国の金融政策動向」が最も回答割合を集めた点は変わらないが「各国の景況感格差(前月回答割合: 45.1%)」や「各国の政局や国際政治情勢(同: 39.4%)」の回答割合がそれぞれ前月から増加した。米欧の景況感格差の拡大や、調査期間中に浮上したキプロスの先行き不透明感を受け、FX投資家がこの2点についての関心度を高めたものと考えられる。

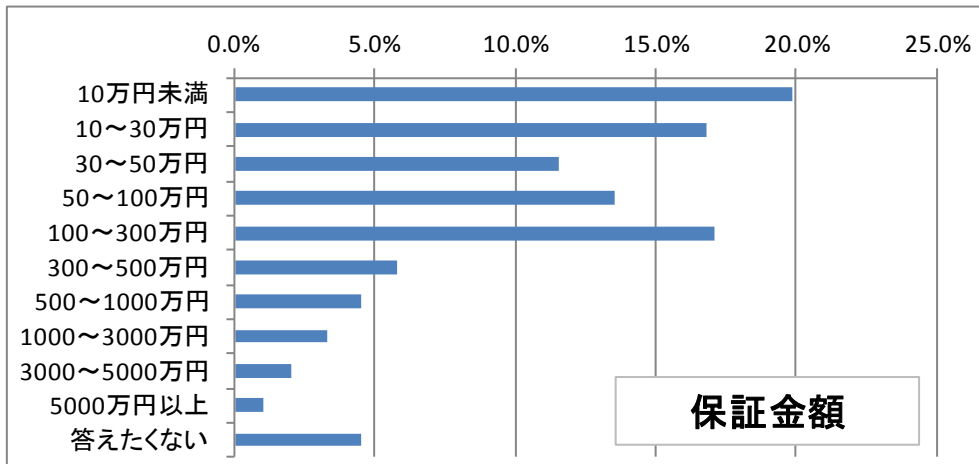


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2013 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

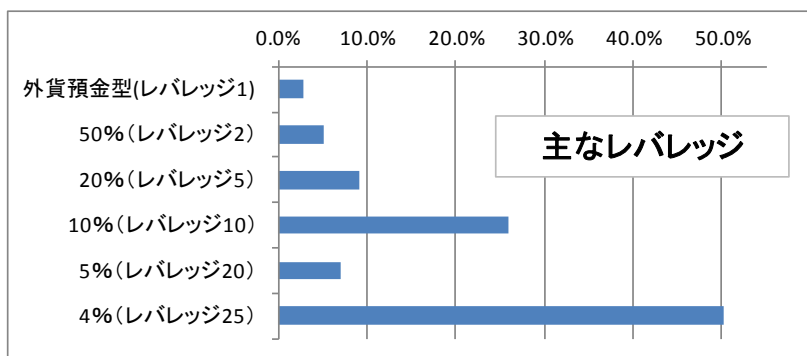
問8: FX取引の際の取引保証金の額についてお答えください(ひとつだけ)

「FX取引の際の保証金の額」について尋ねたところ、「10万円未満」と答えた割合が19.8%と最も多く、以下「100～300万円(17.1%)」、「10～30万円(16.8%)」、「50～100万円(13.6%)」、「30～50万円(11.6%)」と続いた。100万円以下の保証金で取引を行っているとした合算割合が61.8%と前回調査の62.2%から減少した一方で、100万円以上の保証金と答えた合算割合は32.1%から33.7%に増加している。小額の保証金で取引が可能というFXの特性を生かすFX投資家が引き続き多数派ではあるが、FX取引高の大幅な増加を同時に鑑みれば(金融先物取引業協会の調べによると2月の店頭FX各社の合計出来高は過去最高の366兆円に達した)、高額保証金の取引が増えている可能性がある。



問9: FX投資の際、主に何倍のレバレッジを活用していますか？(ひとつだけ)

「FX投資の際に主として活用している保証金率(レバレッジ)」について尋ねたところ、「4%(レバレッジ25)」と答えた割合が50.3%と最も多く、「10%(レバレッジ10)」が25.9%、「20%(レバレッジ5)」が9.0%と続き、以下「5%(レバレッジ20)」が7.0%、「50%(レバレッジ2)」が5.0%と続いた。最大レバレッジである4%(25倍)を主に活用する向きが引き続き回答者の半数を超えており、FX投資家の積極的な売買姿勢が窺える結果となった。なお、今回調査に回答を寄せたFX投資家が主に活用するレバレッジの平均は16.7倍と、前月の17.3倍からやや低下した。

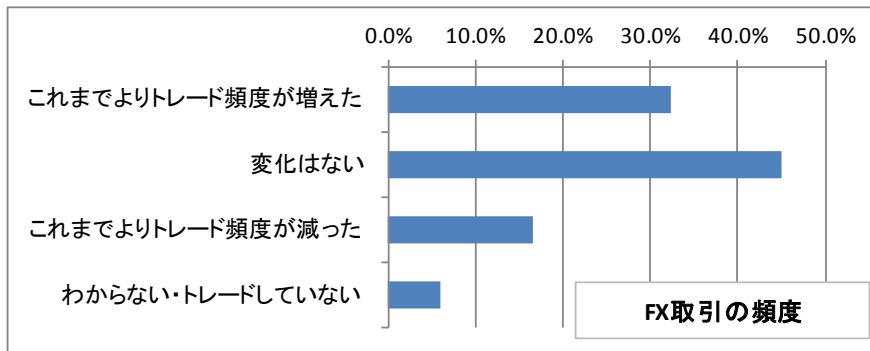


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2013Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

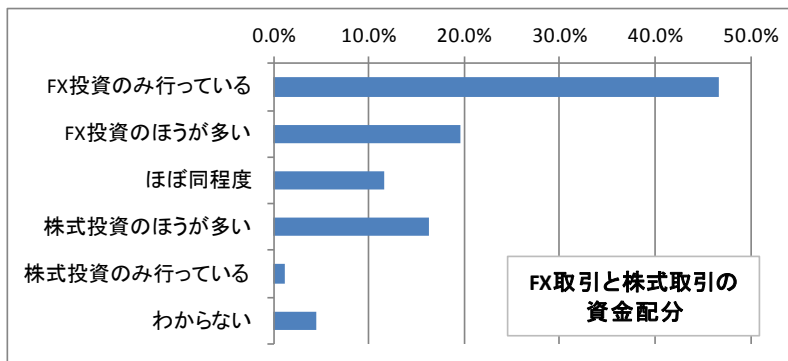
問10: 2013年1月～3月の円安相場で、これまでと比べ、FX取引の頻度に変化はありましたか？(ひとつだけ) また、どのようなトレードを行いましたか

今月の特別質問項目として、2013年1月～3月の円安相場で、これまでと比べ、FX取引の頻度に変化はありましたか？(ひとつだけ)また、どのようなトレードを行いましたか、と尋ねたところ、下表のような結果が得られた。「変化はない」が45.0%と最も多い回答割合となったが、「これまでよりトレード頻度が増えた」層は32.4%と「これまでよりトレード頻度が減った」層(16.6%)の倍近い回答割合となっており、大幅に円安が進む中で積極的にトレードする層が増えた様子が見受けられる。一般的に逆張りでのトレードが多いと言われるFX投資家だが、数カ月にわたって円安が進行する中での取引増は順張りが増加したことを示唆しており、局面に応じてFX投資家層が取引姿勢を柔軟化させている様子が分かる。なお、取引頻度を増やしたFX投資家からは「デイトレードでロングのみ」という声が目立った他、「塩漬けポジションを売却した」との声もあった。



問11: FX取引と株式取引における現在の資金配分(建玉ベース)はどうなっていますか？(ひとつだけ)

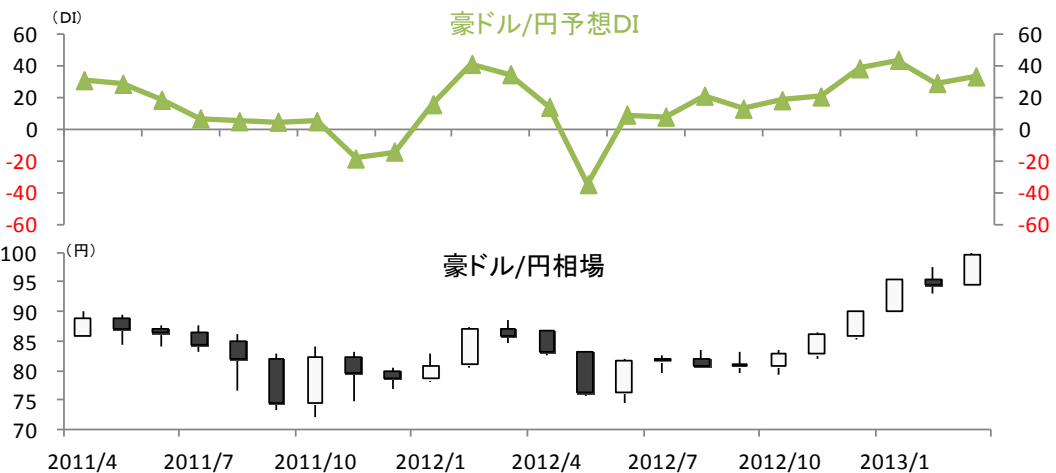
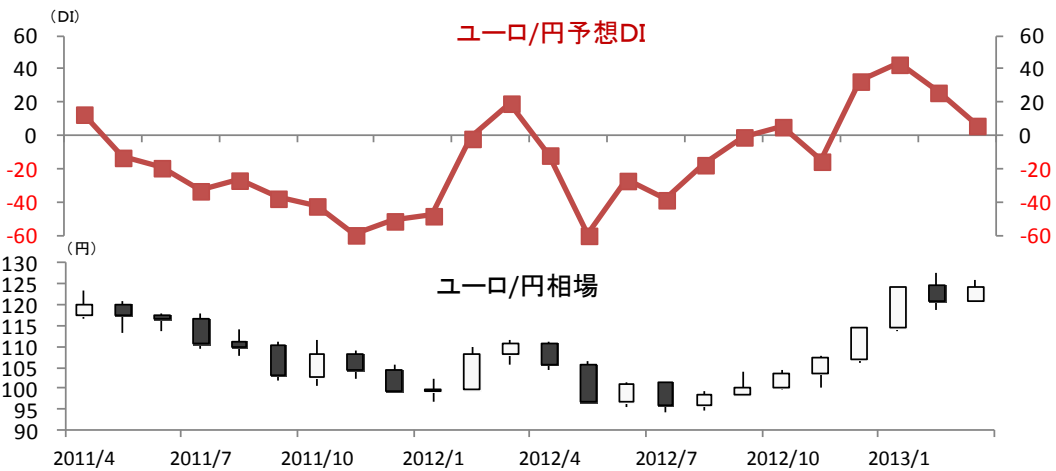
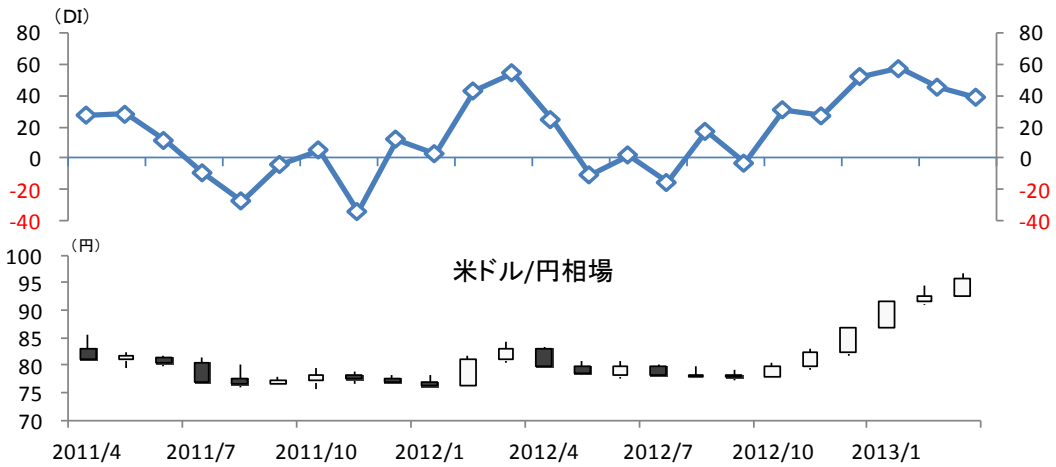
今月のもうひとつの特別質問項目として、FX取引と株式取引における現在の資金配分(建玉ベース)はどうなっていますか？(ひとつだけ)と尋ねたところ、「FX投資のみ行っている」との回答割合が46.7%と最も多く、以下、「FX投資の方が多い(19.6%)」、「株式投資の方が多い(16.3%)」、「ほぼ同程度(11.6%)」「わからない(4.5%)」「株式投資のみ行っている(1.3%)」と続いた。ここから、FX投資家のうち、半数以上がその他の金融商品の取引を並行して行っている様子が見受けられる。「わからない」とした層はFX、株以外の金融商品(外貨預金、債券、不動産、商品等)を併せて取引している可能性がある。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2013 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【付表:主要3通貨ペア予想DIと月足の推移】



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2013 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【今後の調査実施計画及び公表方針】

本調査も第46回目となりました。調査開始から3年以上が経過し、前月との対比での時系列比較だけでなく、前年同期との比較も可能になってきました。今後については、毎月定点観測で実施する調査結果を基に、予想DIの時系列比較等から見出せるFX投資家の相場観の変化やその傾向などの把握を進めていきたいと考えています。

なお、毎月の本調査においては、公表扱いとしている質問項目及び回答結果の他に、「投資家の属性」、「取引頻度」、「取引規模」、「取引時間帯」、「投資選好」など、投資家実態を把握するために必要な各種の質問項目も設けて集計しています。それらの回答結果を用いた投資家の実態報告や属性別のクロス・セクション分析等については、当研究所が1年に1回、毎年年初以降に公表する「外為白書」で紹介する予定です。

【付表：主要3通貨ペア予想DIの推移】

		米ドル/円			ユーロ/円			豪ドル/円		
		米ドル高	米ドル安	DI	ユーロ高	ユーロ安	DI	豪ドル高	豪ドル安	DI
2011年	4月	48.2	20.7	27.5	43.8	30.7	13.1	51.0	20.0	31.0
	5月	44.3	16.3	28.0	29.4	42.3	-12.9	47.7	19.0	28.7
	6月	33.4	22.1	11.3	25.2	44.3	-19.1	41.2	22.6	18.6
	7月	29.4	38.7	-9.3	22.3	55.3	-33.0	36.2	29.4	6.8
	8月	18.1	45.3	-27.2	20.8	47.4	-26.6	36.3	31.3	5.0
	9月	23.9	27.9	-4.0	21.0	58.5	-37.5	36.4	31.7	4.7
	10月	26.3	21.0	5.3	19.4	61.5	-42.1	40.0	35.0	5.0
	11月	14.5	48.5	-34.0	12.1	71.6	-59.5	26.3	44.9	-18.6
	12月	30.2	18.0	12.2	13.5	64.6	-51.1	27.1	41.3	-14.2
2012年	1月	25.0	22.1	2.9	17.9	65.9	-48.0	40.5	24.7	15.8
	2月	57.4	14.5	42.9	36.1	37.6	-1.5	59.1	17.8	41.3
	3月	67.0	12.5	54.5	43.4	23.7	19.7	52.5	17.7	34.8
	4月	45.1	20.5	24.6	29.8	41.3	-11.5	40.8	26.7	14.1
	5月	25.9	36.5	-10.6	11.7	71.5	-59.8	21.2	56.0	-34.8
	6月	30.9	28.8	2.1	27.3	54.1	-26.8	41.0	31.8	9.2
	7月	18.4	33.9	-15.5	19.7	58.1	-38.4	36.6	28.7	7.9
	8月	36.1	19.0	17.1	27.4	44.7	-17.3	43.0	21.8	21.2
	9月	27.9	31.0	-3.2	38.7	39.2	-0.6	40.2	27.2	13.0
	10月	44.9	14.0	30.9	39.1	33.5	5.6	42.5	24.2	18.3
	11月	48.5	21.5	27.0	27.9	43.1	-15.2	44.0	23.3	20.7
	12月	69.2	17.1	52.1	56.2	23.2	33.0	56.2	17.7	38.5
2013年	1月	70.7	13.6	57.1	61.4	18.3	43.1	60.3	16.4	43.9
	2月	60.0	14.7	45.3	50.1	23.9	26.2	48.6	19.4	29.2
	3月	55.5	16.6	38.9	37.2	30.9	6.3	53.0	19.6	33.4

(出所)外為どっとコム総合研究所

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2013 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com